

第2部 アンケート調査結果

第1章 調査結果のとりまとめ

(1) 介護保険サービス

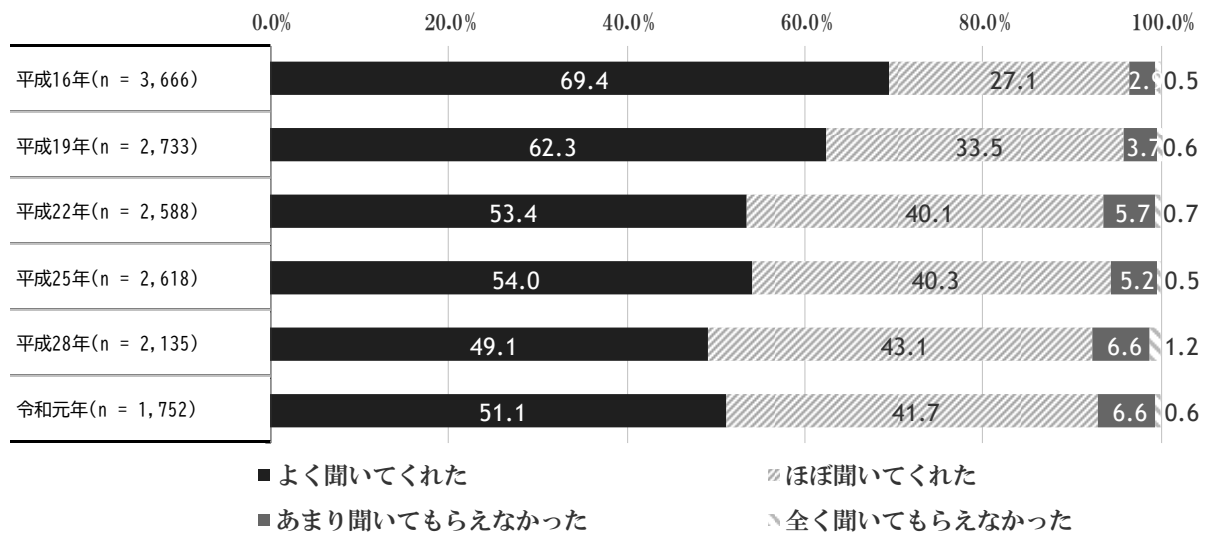
① 認定調査と要介護認定

ア. 認定調査

「認定調査員は、本人や家族の話をよく聞いてくれましたか」という設問に対しては、「よく聞いてくれた」が51.1%と最も高く、次いで「ほぼ聞いてくれた」が41.7%となっております。これらを合わせた“認定調査員は話を聞いてくれたと感じている人”が約9割(92.8%)を占めています。

経年比較でみると、「よく聞いてくれた」の割合が前回調査よりも増加しています。

認定調査員は本人や家族の話をよく聞いてくれたか(居宅・過去の調査との比較)



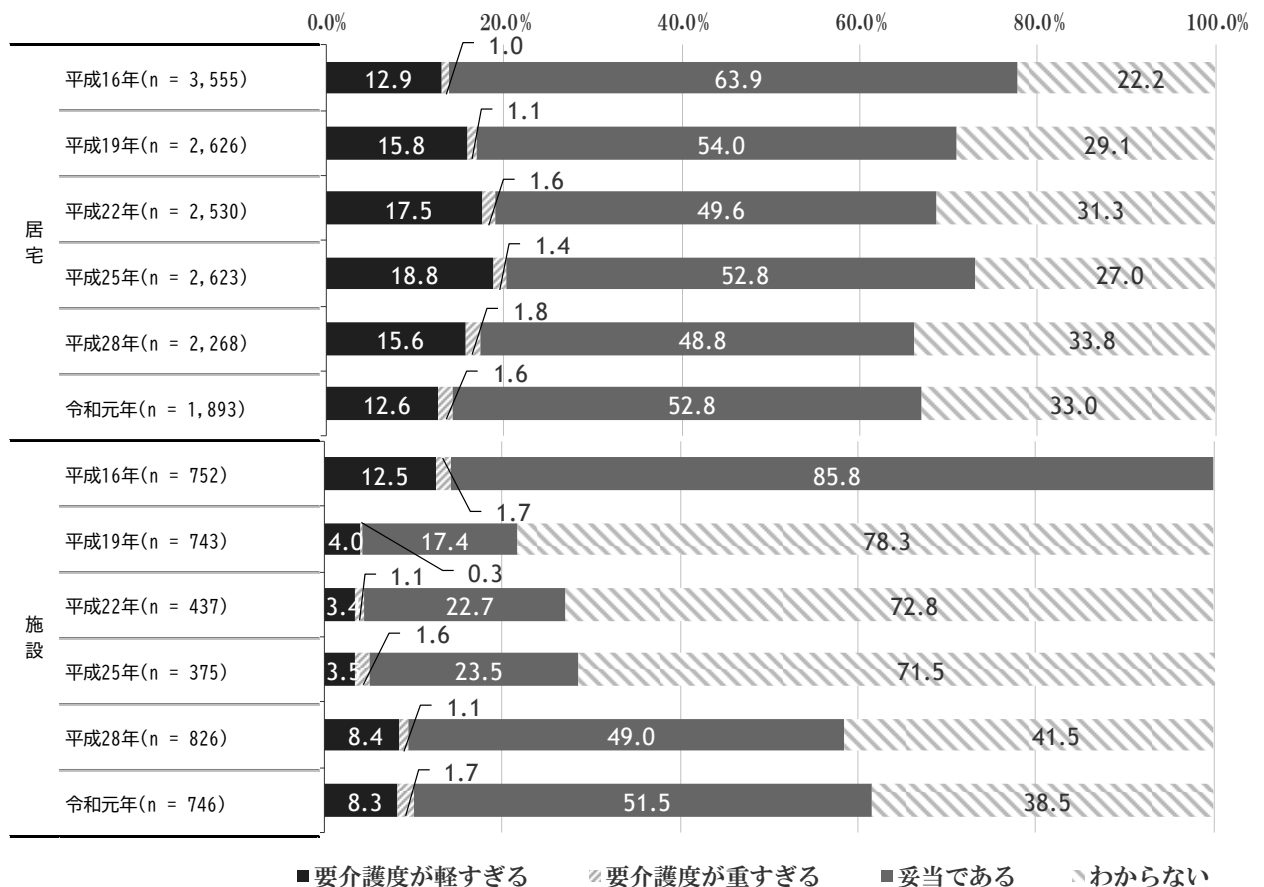
イ. 要介護認定

居宅の要介護認定に対する評価としては、「要介護度が軽すぎる」が12.6%となっているのに対し、「要介護が重すぎる」が1.6%とごくわずかとなっています。

施設の要介護認定に対する評価としては、「要介護度が軽すぎる」が8.3%となっているのに対し、「要介護が重すぎる」が1.7%とごくわずかとなっています。

居宅・施設とも「妥当である」の割合が5割超となっています。

要介護認定に対する満足度(過去の調査との比較)



②居宅サービス

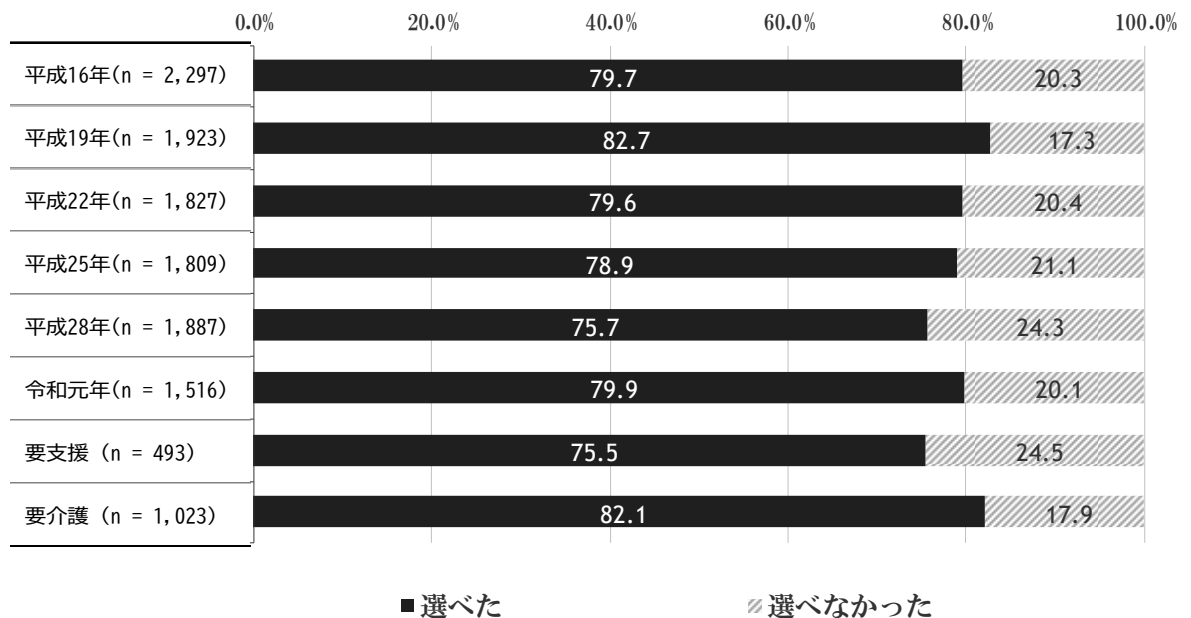
ア. サービスの利用状況

必要なサービスの選択については、「選べた」が79.9%、「選べなかった」が20.1%となっています。

要支援認定者では要介護認定者に比べ、「選べた」が6.6ポイント低くなっています。

これまでの調査と比較すると、平成19年調査以降「選べた」は減少傾向にありましたが、令和元年では増加しました。

必要なだけ居宅サービスを選べたか(居宅・過去の調査との比較)



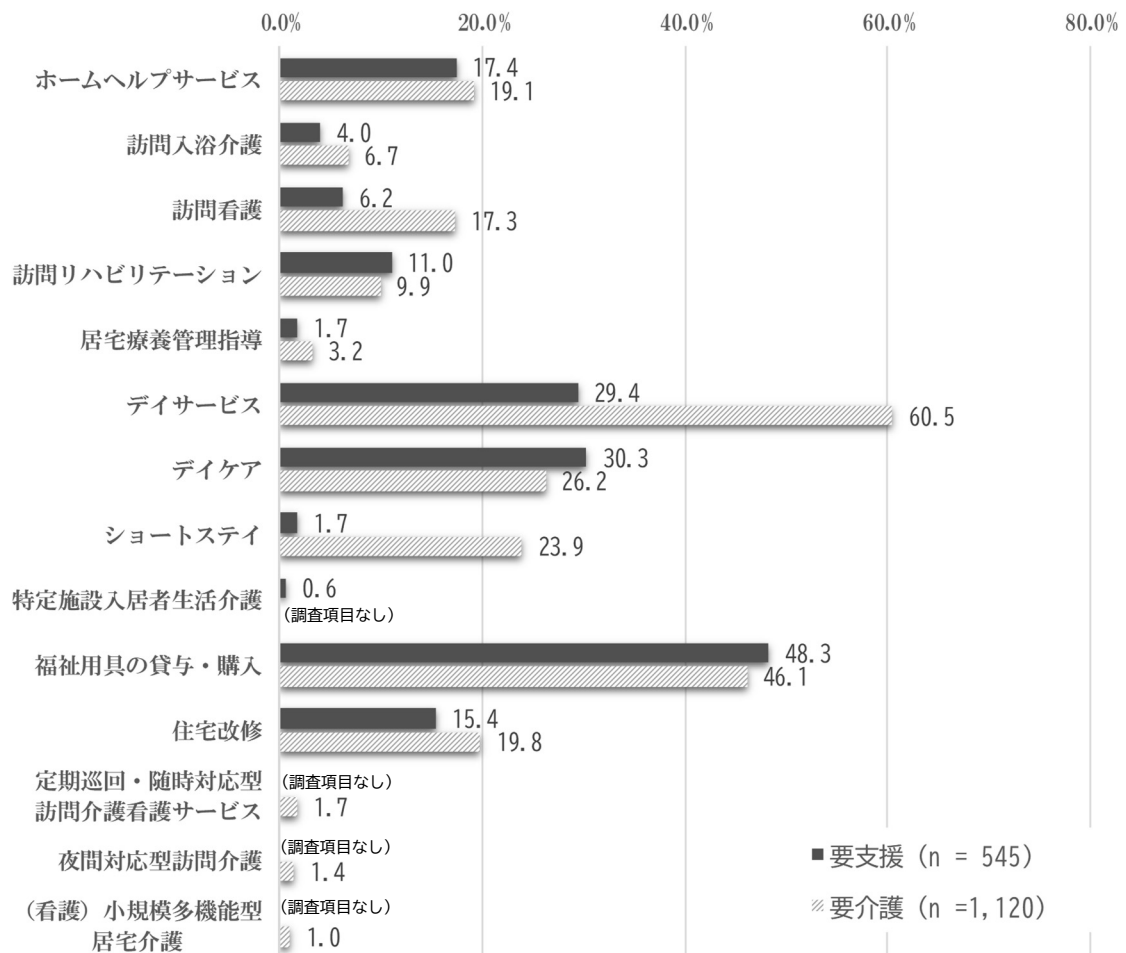
ア. サービスの利用状況

居宅サービスの利用率をみると、要支援認定者では「福祉用具の貸与・購入」(48.3%)が最も高く、次いで「デイケア」(30.3%)、「デイサービス」(29.4%)、「ホームヘルプサービス」(17.4%)となっています。

要介護認定者では「デイサービス」(60.5%)が最も高く、次いで「福祉用具の貸与・購入」(46.1%)、「デイケア」(26.2%)、「ショートステイ」(23.9%)となっています。

要介護認定者では要支援認定者に比べ、「デイサービス」「ショートステイ」「訪問看護」が高くなっています。また、要介護認定者では通所系サービスの利用が高いことがうかがえます。

居宅サービスの利用率

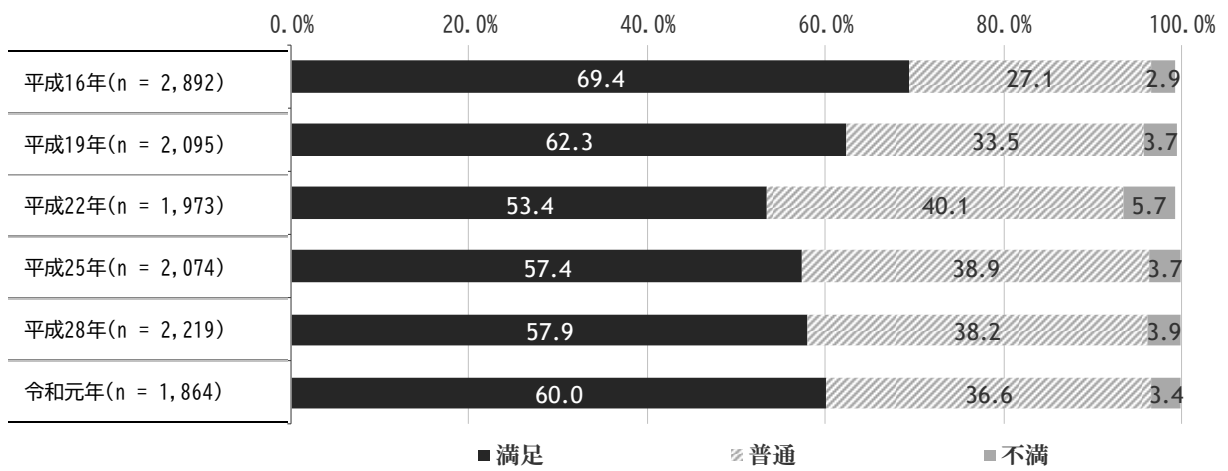


イ. 居宅サービスの満足度

居宅サービスの満足度については、「満足」が60.0%、「不満」が3.4%とごくわずかとなっており、サービスに対する満足度は高くなっています。

経年比較でみると、「満足」の割合が平成22年以降増加傾向にあります。

居宅サービスの満足度(居宅・過去の調査との比較)

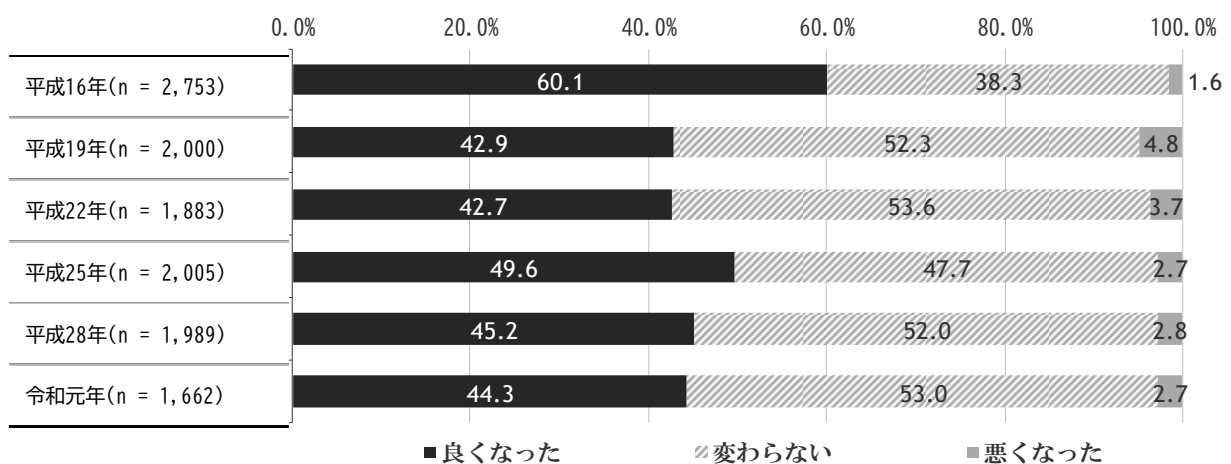


ウ. 本人の身体的・精神的変化

居宅サービス利用による身体的・精神的変化については、「良くなった」が44.3%、「悪くなった」が2.7%とごくわずかとなっており、多くの居宅サービス利用者がサービスを利用することにより身体的・精神的にも軽減されている状況がうかがえます。

経年比較でみると、大きな変化はみられません。

介護サービス利用による本人の身体的・精神的変化(居宅・過去の調査との比較)



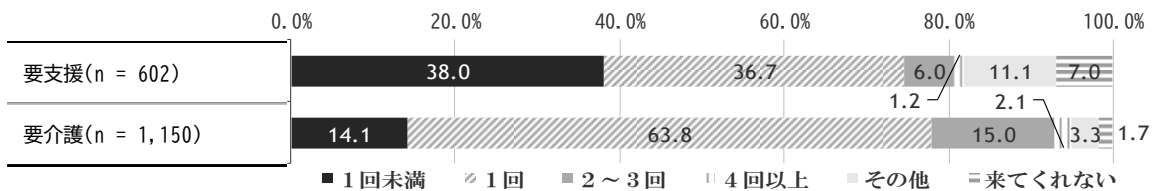
③サービス計画

ア. サービス計画作成者の訪問頻度

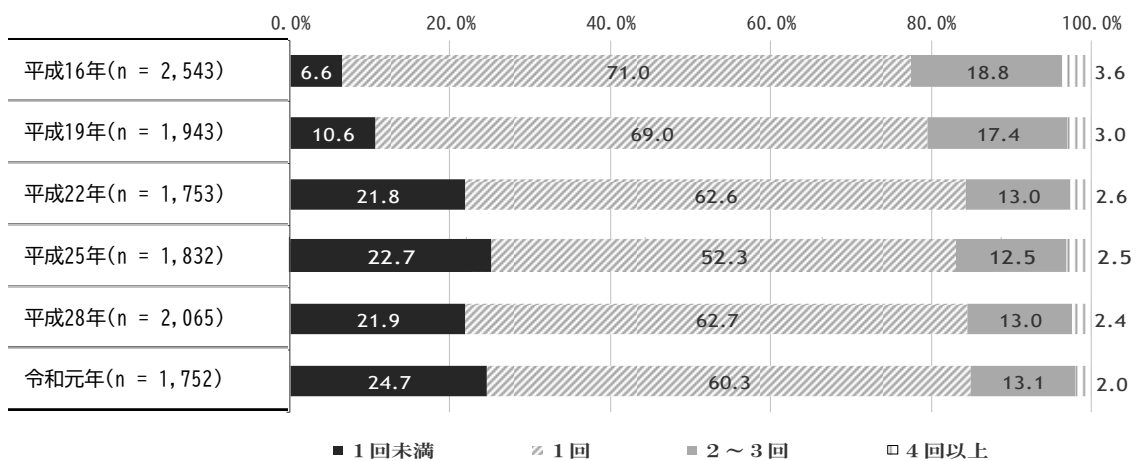
介護サービス計画および介護予防サービス計画作成者のサービス利用者宅への訪問頻度については、要支援認定者で「月1回未満」が38.0%と最も高く、次いで「月1回」が36.7%となっています。要介護認定者では、「月1回」が63.8%と最も高くなっています。一方、「来てくれない」は要支援認定者で7.0%、要介護認定者で1.7%となっています。

経年比較でみると、大きな変化はみられません。

サービス計画作成者の訪問頻度



サービス計画作成者の訪問頻度(過去の調査との比較)



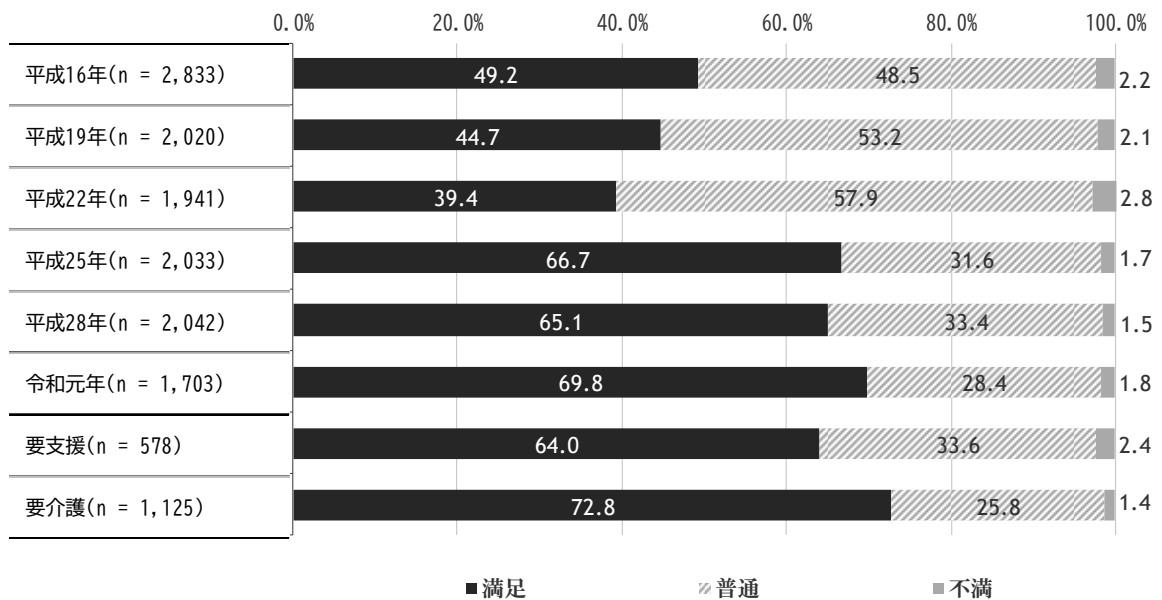
イ. サービス計画等の満足度

介護サービス計画および介護予防サービス計画への満足度については、「満足」が69.8%、要支援認定者で64.0%、要介護認定者では、72.8%となっています。

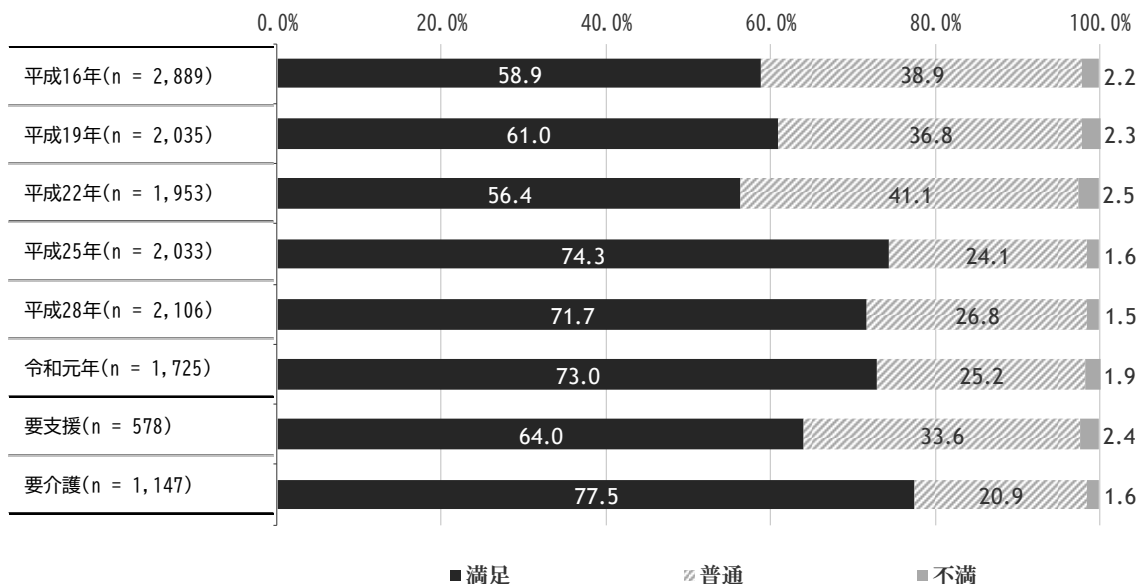
介護サービス計画作成者に対する満足度は、「満足」が73.0%、要支援認定者で64.0%、要介護認定者では、77.5%となっています。

経年比較でみると、介護サービス計画への満足度は平成25年以降「満足」が6割を超えたまま推移しています。介護サービス計画作成者に対する満足度は、「満足」が平成25年以降「満足」が7割を超えたまま推移しています。

サービス計画の満足度(過去の調査との比較)



サービス計画作成者に対する満足度(過去の調査との比較)



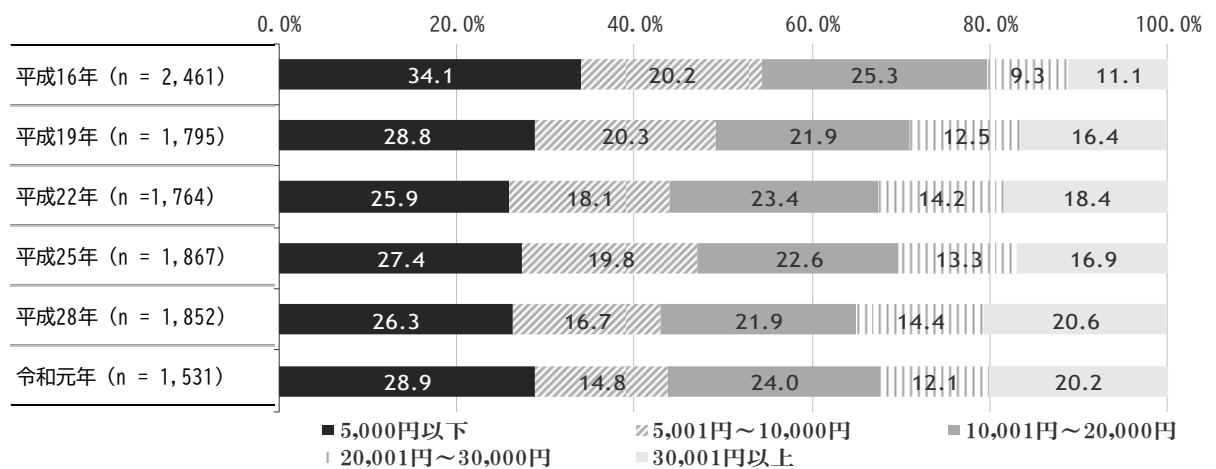
④利用者負担と介護保険料

ア. 利用者負担額

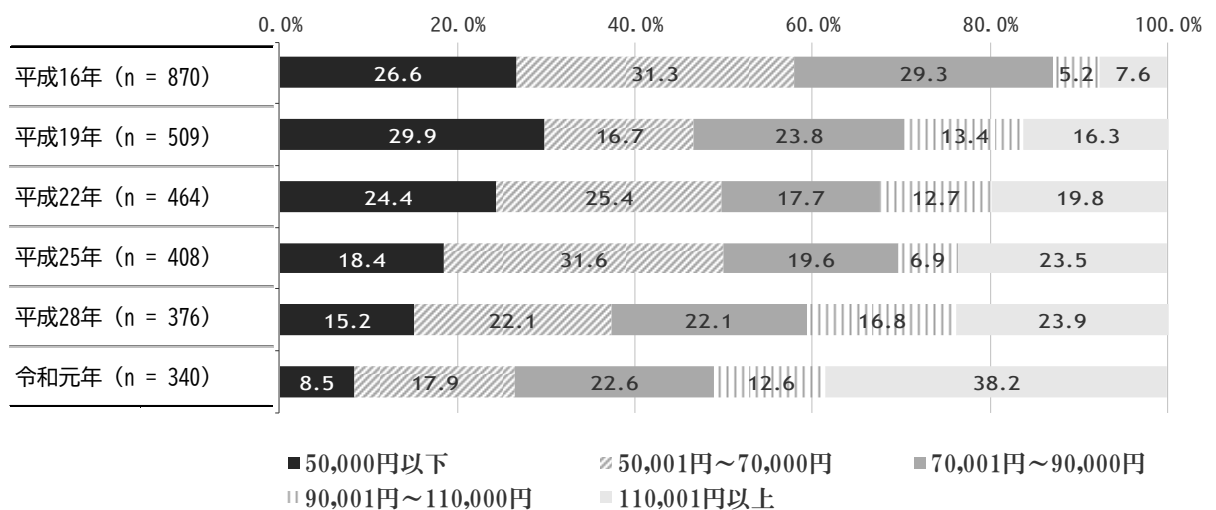
1か月分の利用者負担額は、居宅サービス利用者では、「5,000円以下」が、介護保険施設入所者では、「110,001円以上」が最も多くなっています。

経年比較でみると、前回調査に比べて、介護保険施設入所者では、「50,000円以下」「50,001円～70,000円」が減少しています。

1か月分の利用者負担額(居宅サービス利用者・過去の調査との比較)



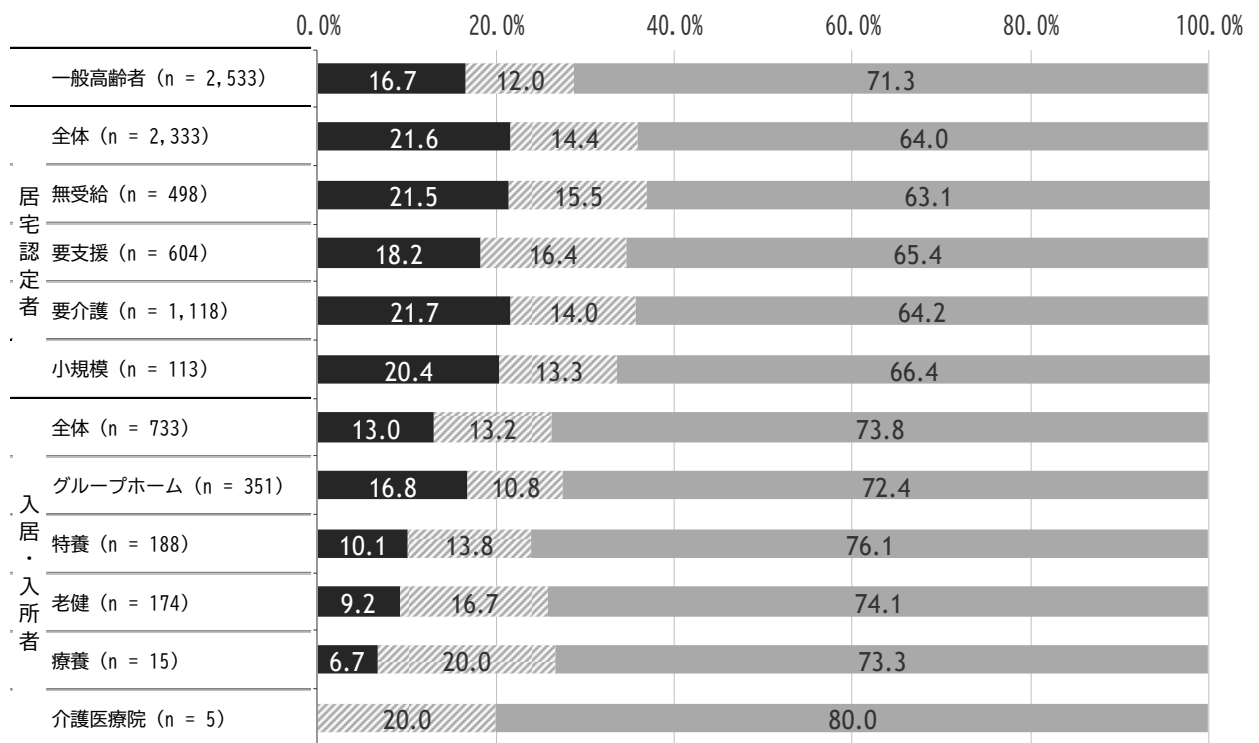
1か月分の利用者負担額(介護保険施設入所者・過去の調査との比較)



イ. 介護サービスの水準と保険料について

介護サービスの水準と保険料については、一般高齢者及び居宅認定者は全体として「保険料は高くてもサービスが充実している方がよい」が「サービスは充実していても保険料が安い方がよい」を上回っています。一方、入居・入所者は全体では拮抗しています。入居・入所者の中で唯一「グループホーム」では「保険料は高くてもサービスが充実している方がよい」が「サービスは充実していても保険料が安い方がよい」を上回っています。

介護サービスの水準と保険料について



- 保険料は高くてもサービスが充実している方がよい
- ▨ サービスは充実していても保険料が安い方がよい
- どちらともいえない

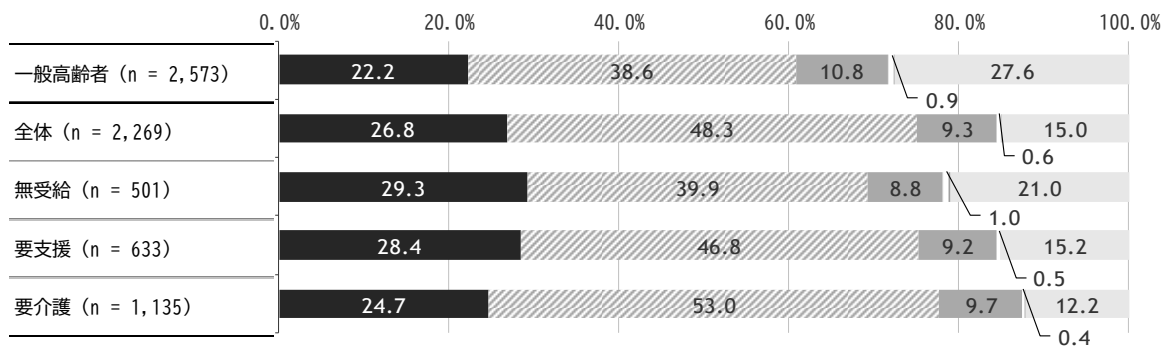
⑤これからの生活

ア. これからの生活

これからの生活については、すべての区分で「居宅サービスを活用しながら」が最も高く、次いで「自宅で家族中心」となっています。特に、要介護認定者で「居宅サービスを活用しながら」が5割以上と高くなっています。

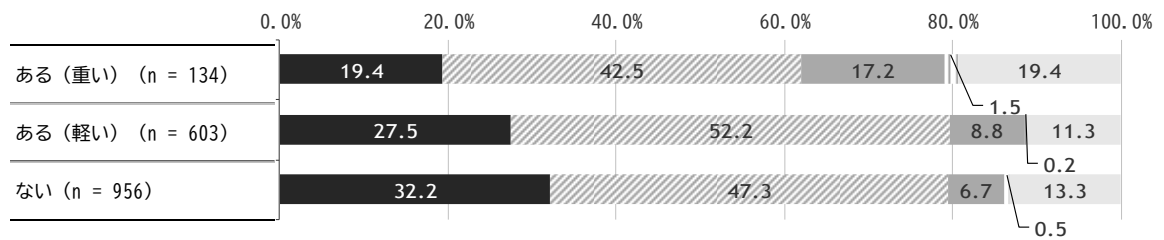
認知症状別にみると、認知症状の軽い人ほど「自宅で家族中心」が高くなっています。

これからの生活



- 自宅で、家族などを中心に介護してほしい
- ▨ 自宅で、ホームヘルプサービス（訪問介護）やデイサービス（通所介護）などを活用しながら生活したい
- 老人ホームなどに入所したい
- ▨ 同居でない家族の元へ行きたい
- わからない

これからの生活(認知症状の有無別)



- 自宅で、家族などを中心に介護してほしい
- ▨ 自宅で、ホームヘルプサービス（訪問介護）やデイサービス（通所介護）などを活用しながら生活したい
- 老人ホームなどに入所したい
- ▨ 同居でない家族の元へ行きたい
- わからない

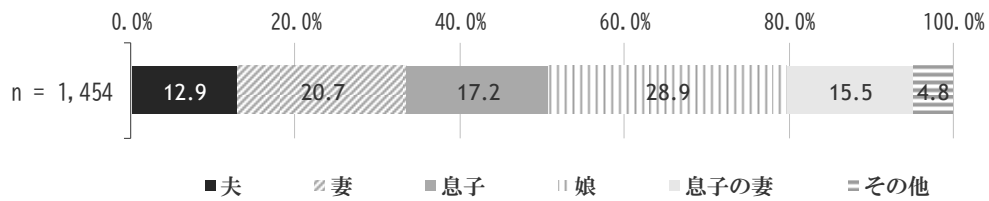
⑥介護者

ア. 主な介護者

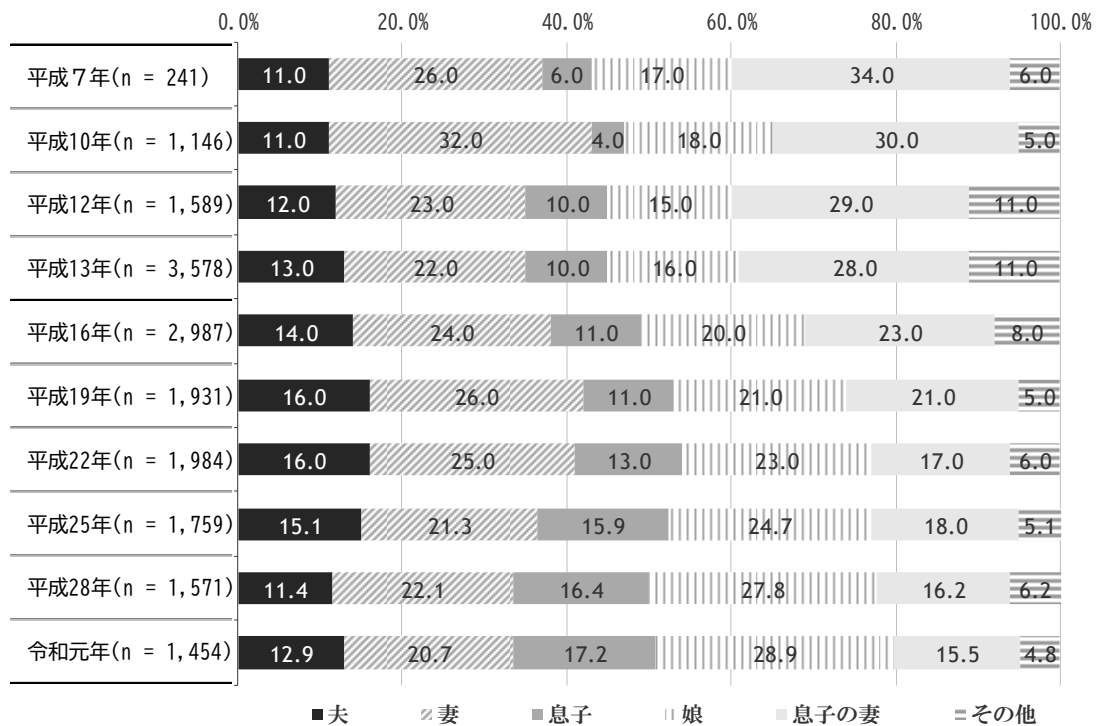
居宅の主な介護者については、「娘」が28.9%と最も高く、次いで「妻」が20.7%、「息子」が17.2%、「息子の妻」が15.5%となっており、女性が介護の中止的役割を担っていることがうかがえます。

主な介護者について、過去9回行った調査と比較すると、「息子の妻」は減少傾向となっているのに対し、「娘」「息子」は増加傾向が続いています。

主な介護者の関係



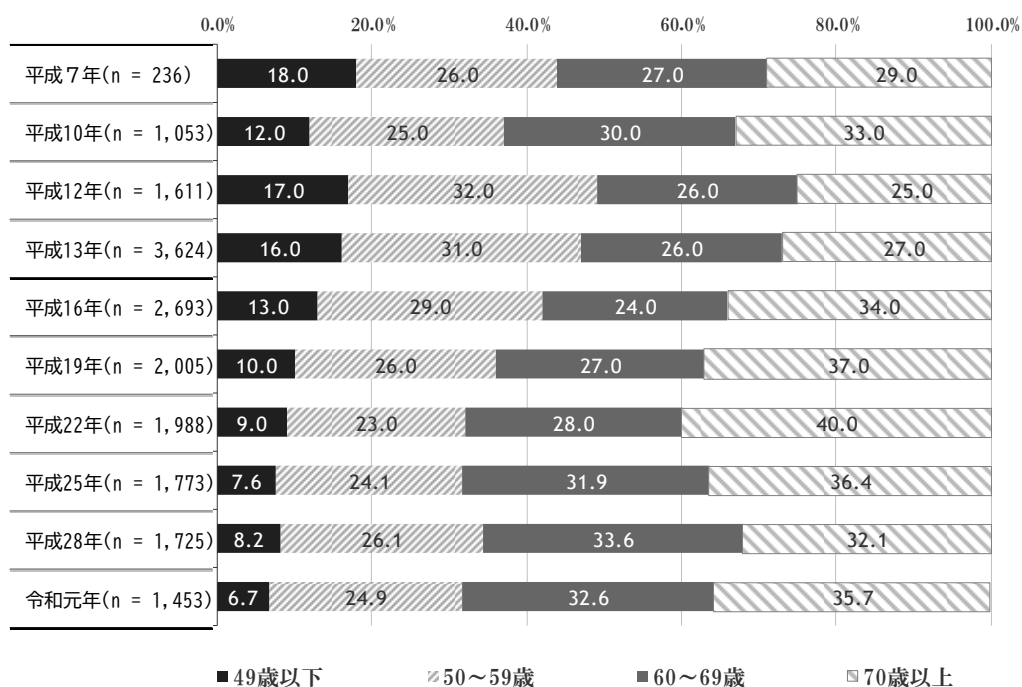
主な介護者(過去の調査との比較)



イ. 主な介護者の年齢

居宅の介護者の年齢については、70歳以上の介護者が35.7%となっており、これに「60～69歳」の32.6%が続いています。

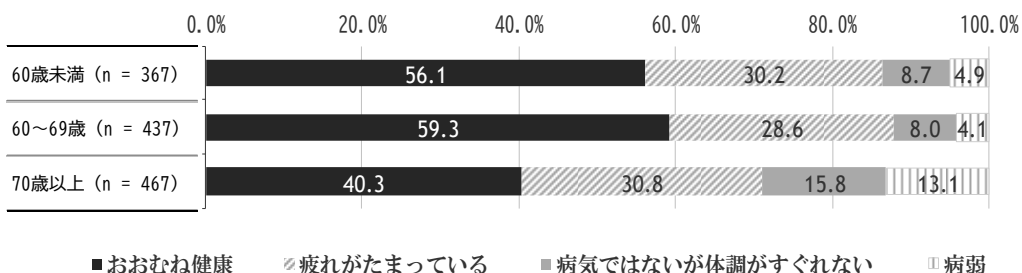
主な介護者の年齢(過去の調査との比較)



ウ. 主な介護者の健康状態

主な介護者の健康状態を年齢別で見ると、70歳以上で「おおむね健康」が約4割と低くなっています。

介護者の健康状態(介護者の年齢別)

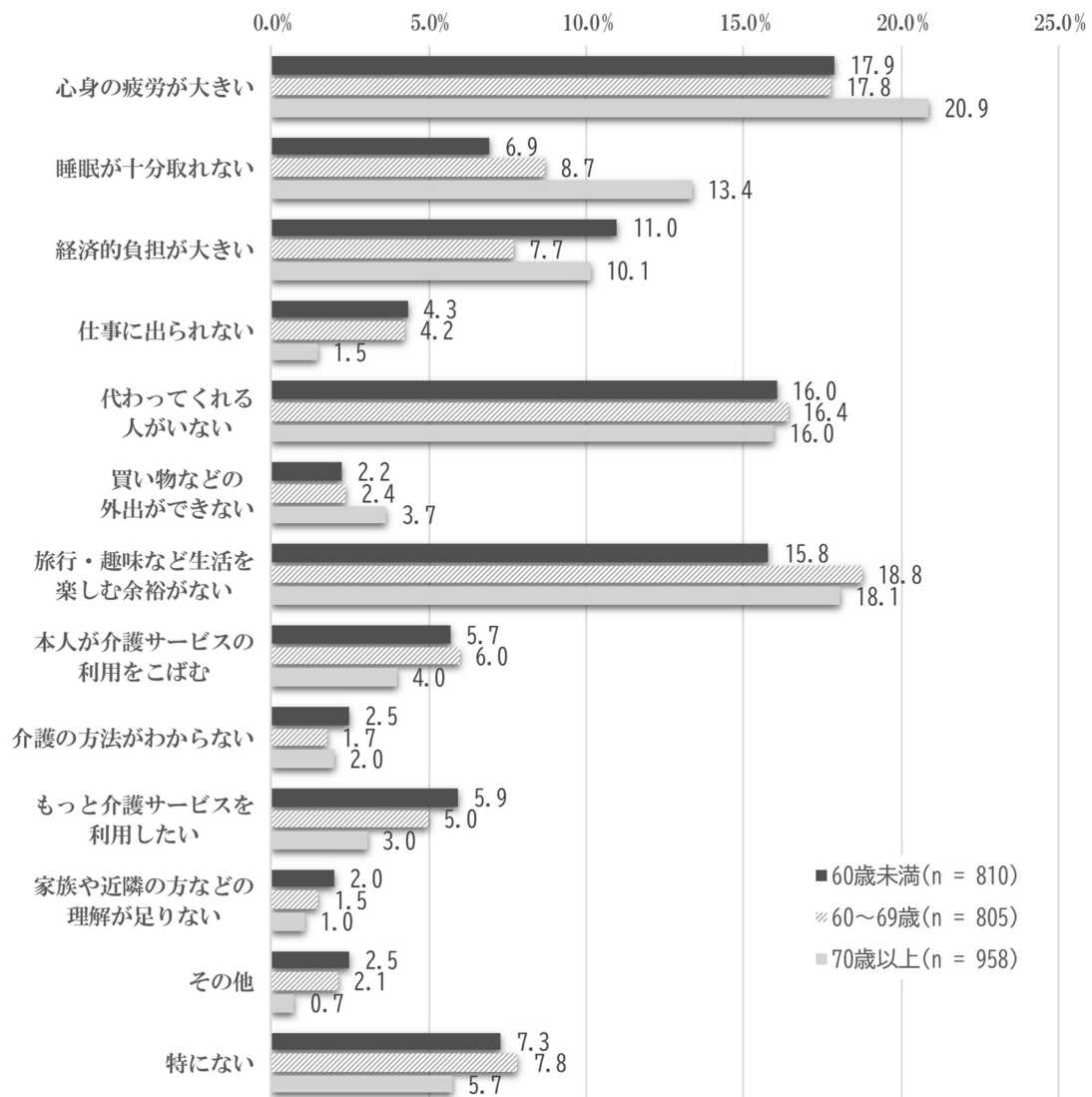


Ⅰ. 介護をするうえで困っていること

介護するうえで困っていることは、「旅行・趣味など生活を楽しむ余裕がない」「心身の疲労が大きい」「代わってくれる人がいない」が高くなっています。

また、年齢別でみると、70歳以上では「睡眠が十分取れない」「買い物などの外出ができない」「心身の疲労が大きい」が他の世代と比べやや高くなっています。

介護するうえで困っていること(介護者の年齢別)



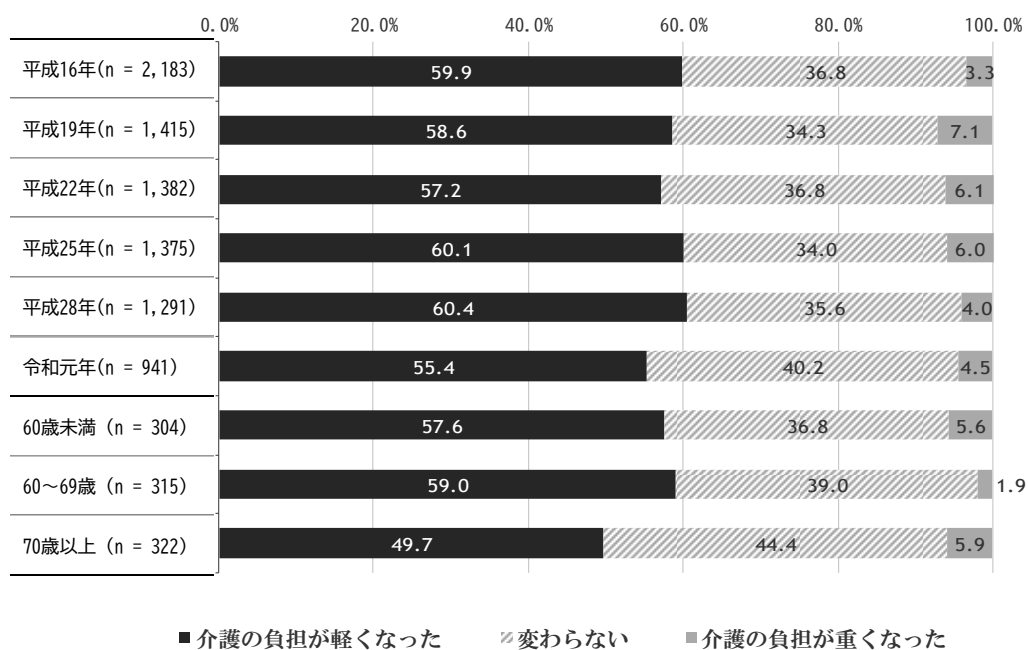
オ. 介護負担の変化

介護者の精神的・肉体的な介護負担の変化については、「介護の負担が軽くなった」が55.4%、「変わらない」が40.2%、「介護の負担が重くなった」が4.5%となっています。

経年比較でみると、大きな変化はみられません。

介護者の年齢別でみると、「介護の負担が軽くなった」が、70歳以上に比べて70歳未満で高くなっており、70歳以上の介護者世帯では介護の負担感が高いことがうかがえます。

介護者の負担の変化(過去の調査との比較)

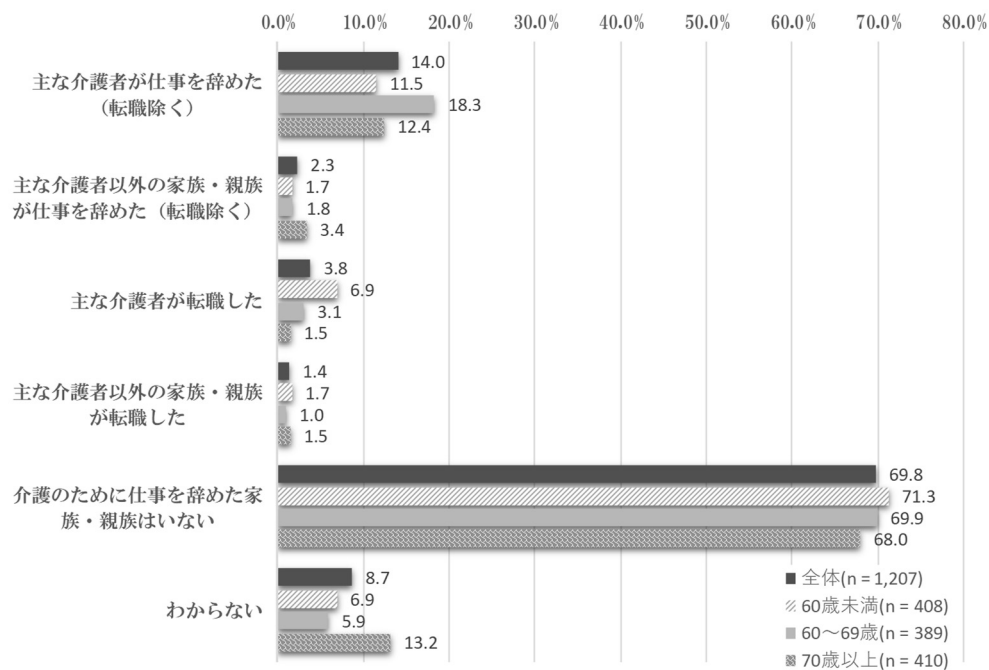


カ. 介護のための離職状況

介護のための離職状況については、主な介護者が離職や転職をしたことがある人が17.8%となっています。

年齢別にみると、60～69歳で「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が18.3%となっています。

介護のための離職状況(介護者の年齢別)

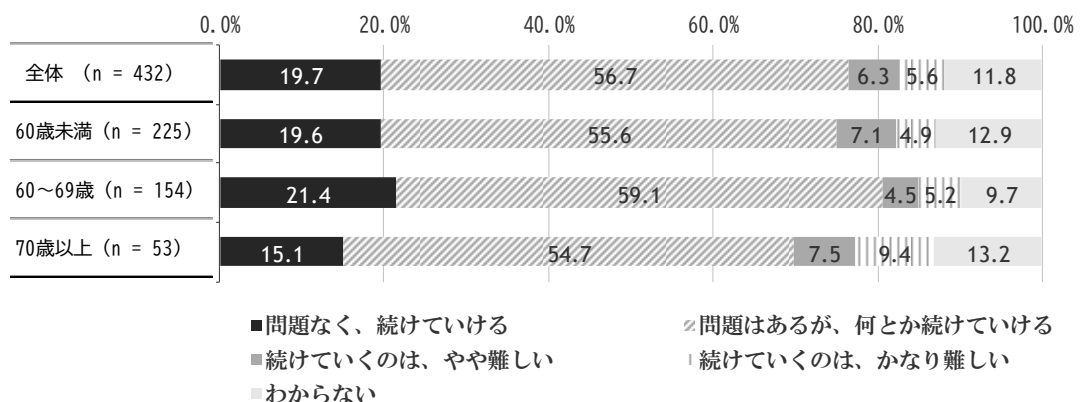


キ. 働きながらの介護継続

働きながらの介護継続について、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた割合は11.9%となっています。

年齢別にみると、70歳以上で「問題はあるが、何とか続けていける」が5割強となっています。

働きながらの介護継続(介護者の年齢別)



(2) 介護保険サービス以外

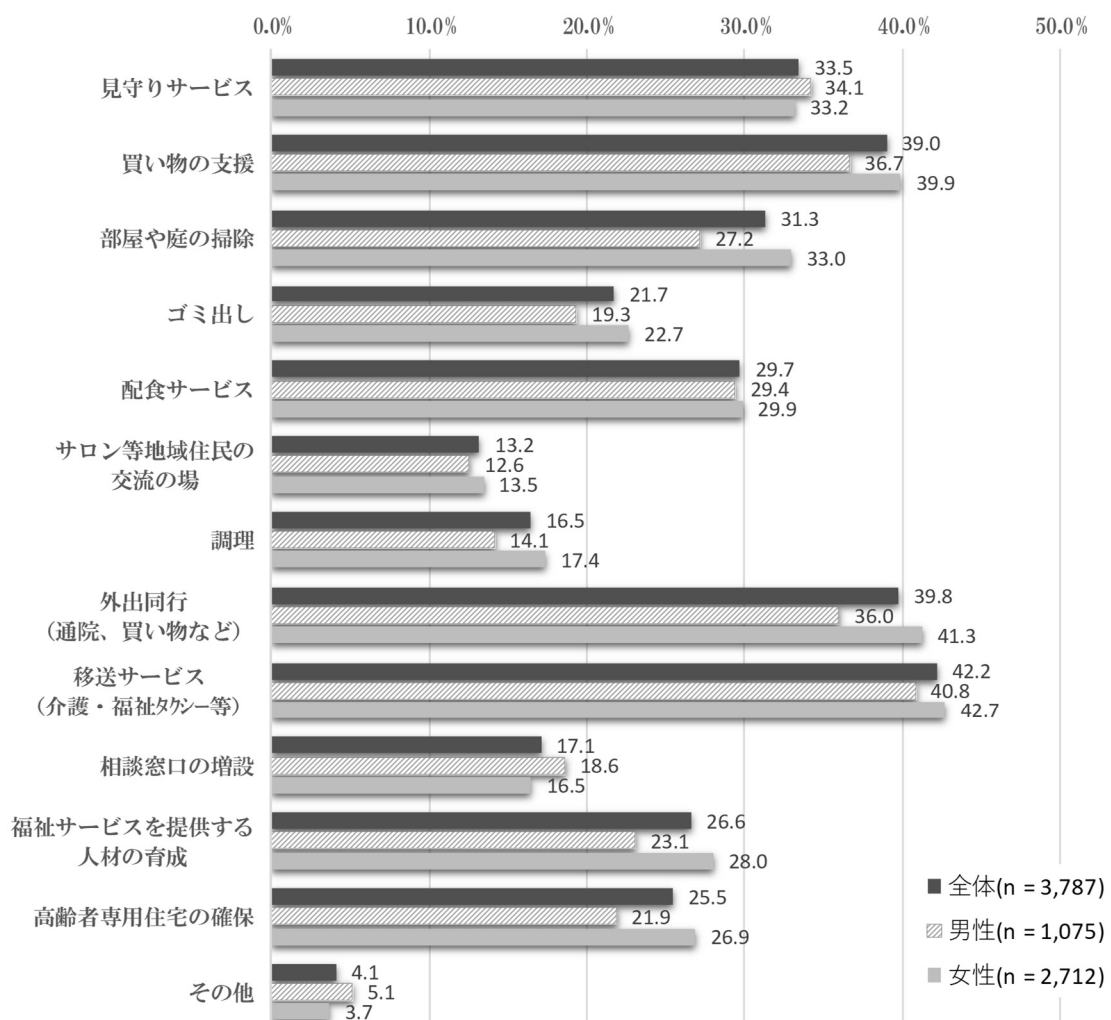
①生活支援・サービス

ア. 高齢者世帯が自立した日常生活を営むうえで必要な支援・サービス

高齢者世帯が自立した日常生活を営むうえで必要な支援・サービスについて、男女とも「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「外出同行」、「買い物の支援」が上位3項目としてあげられ、外出・移動に関して支援が必要となっています。

性別で見ると、「部屋や庭の掃除」「外出同行（通院、買い物など）」「福祉サービスを提供する人材の育成」「高齢者専用住宅の確保」で女性が男性を大きく上回っています。

高齢者世帯が自立した日常生活を営むうえで必要な支援・サービス



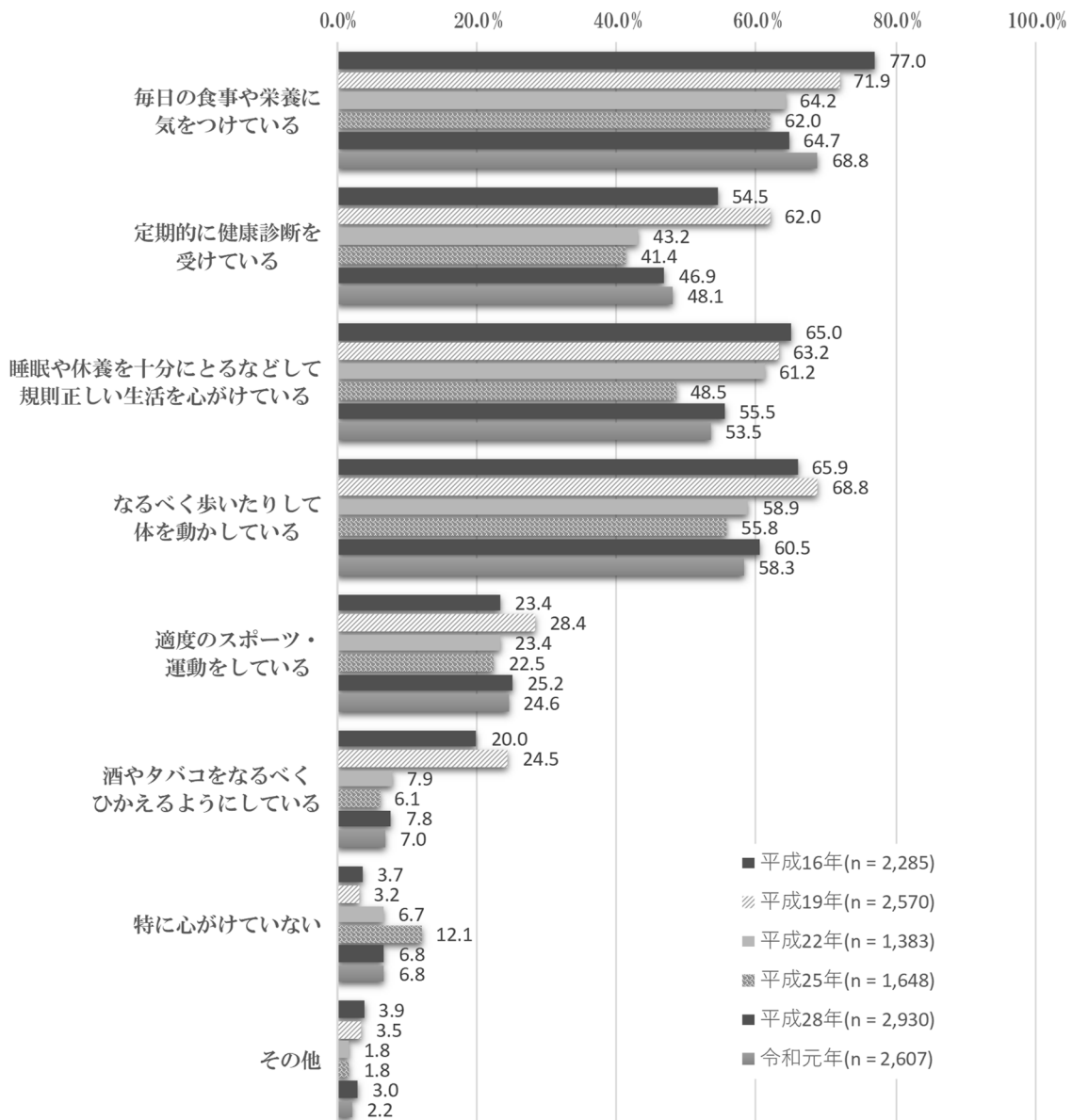
②健康意識

ア. 健康について心がけていること

一般高齢者の健康について心がけていることとしては、「毎日の食事や栄養に気をつけている」が68.8%と最も高く、次いで「なるべく歩いたり体を動かしている」が58.3%、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」が53.5%、「定期的に健康診断を受けている」が48.1%となっています。

前回調査と比較して大きな変化はみられません。

健康について心がけていること(一般高齢者・過去の調査との比較)

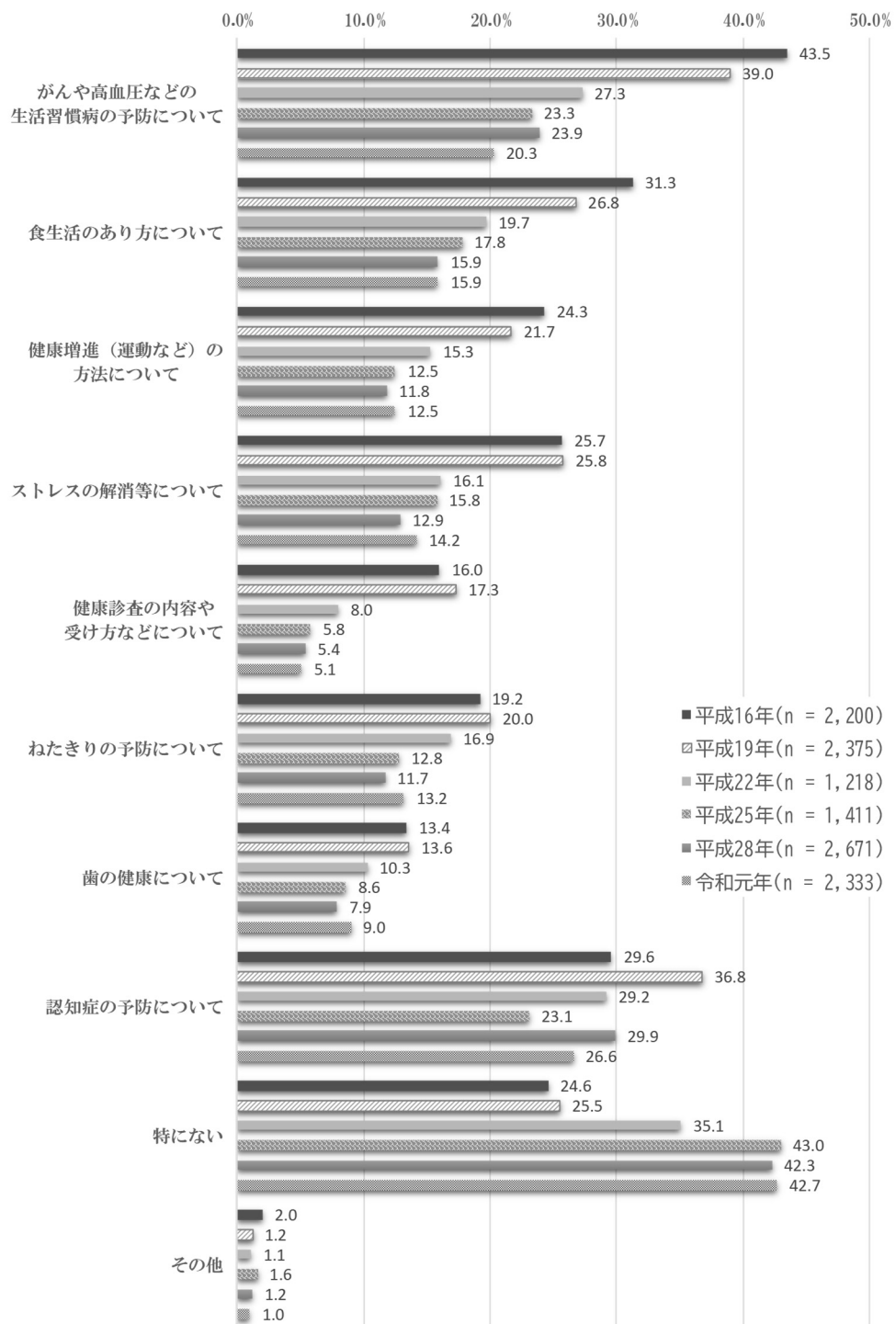


イ. 健康について知りたいこと

一般高齢者の健康について知りたいこととしては、「認知症の予防について」(26.6%)や「がんや高血圧などの生活習慣病の予防について」(20.3%)が高くなっています。一方、「特にない」が42.7%となっています。

経年変化を追うと「特にない」が平成25年以降4割強を維持し横ばいで推移しています。

健康について知りたいこと(一般高齢者・過去の調査との比較)

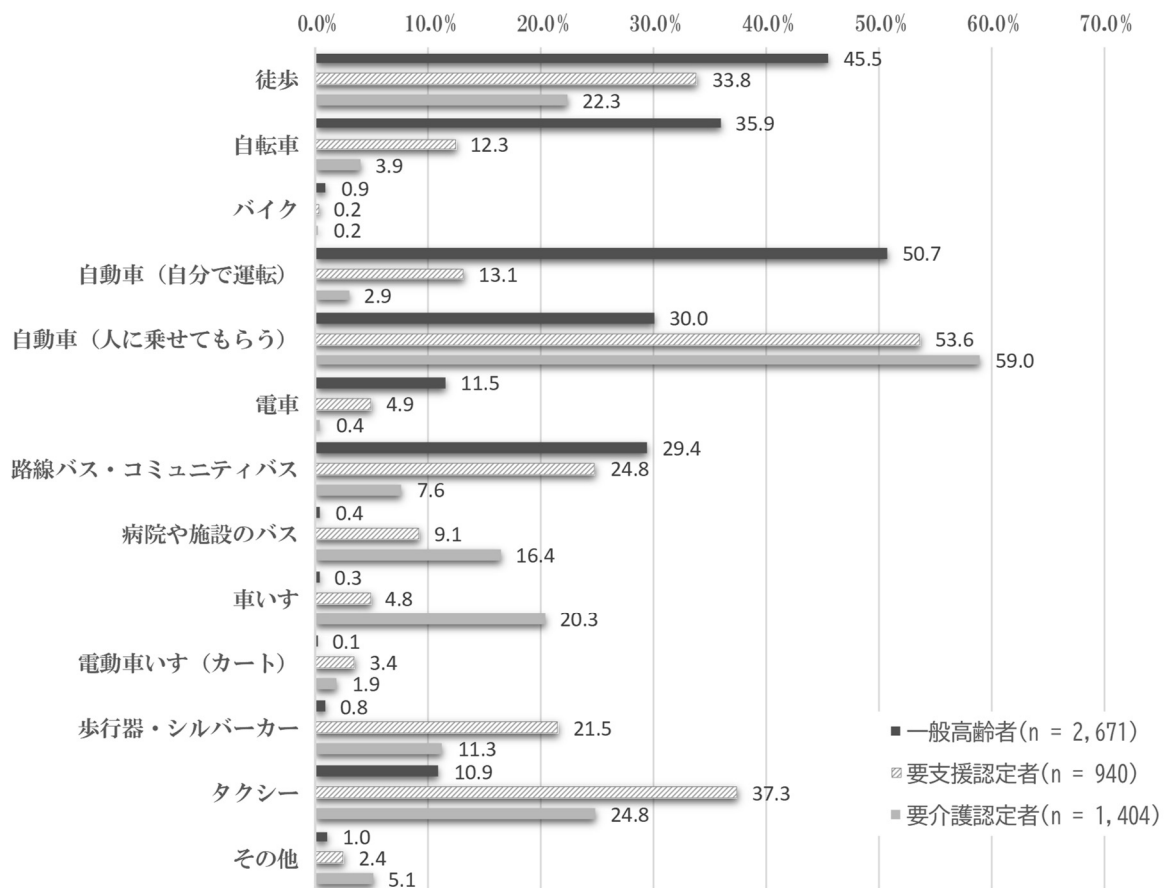


③外出時の移動手段

ア. 外出時の移動手段

外出時の主な移動手段について上位3つをみると、一般高齢者は「自動車（自分で運転）」「徒歩」「自転車」、要支援認定者は「自動車（人に乗せてもらう）」「タクシー」「徒歩」、要介護認定者は「自動車（人に乗せてもらう）」「タクシー」「徒歩」となっています。

外出時の移動手段



④高齢者虐待

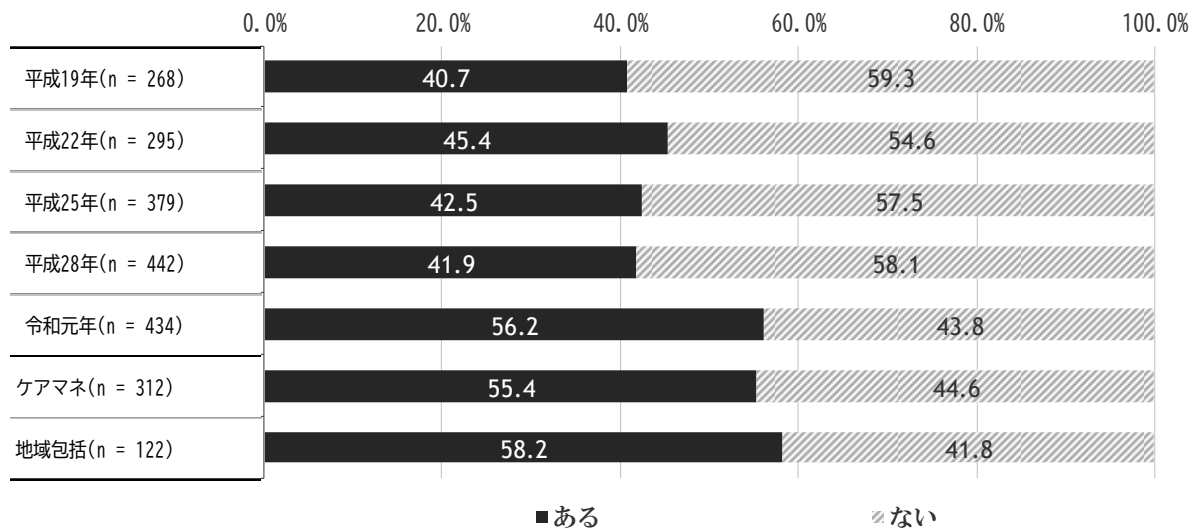
ア. 虐待事例

サービス計画作成担当者の虐待事例に関わったことの有無については、「ある」が56.2%、「ない」が43.8%となっています。

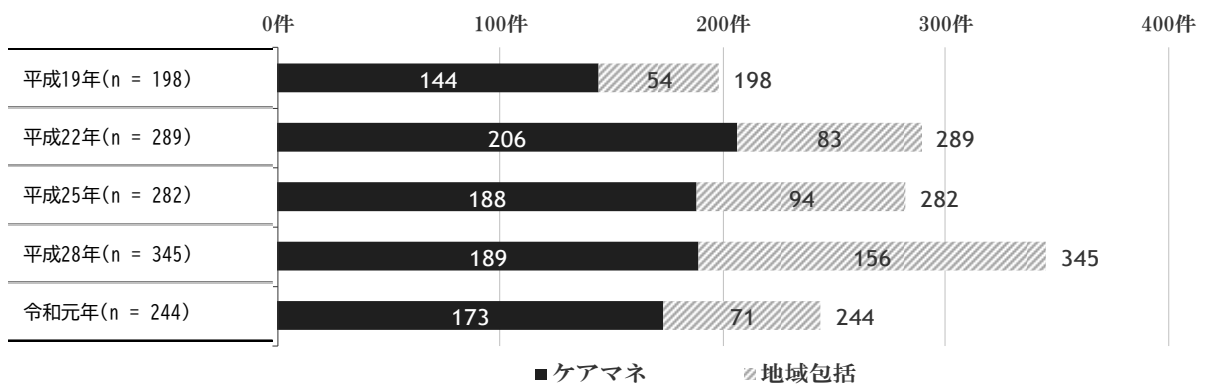
前回調査と比べると、「ある」と回答した人は増加しています。一方で虐待事例件数は減少しています。

また、虐待の分類別にみると、最も多いのは「身体的虐待」で、これに「日常生活上の世話の虐待」が続いています。

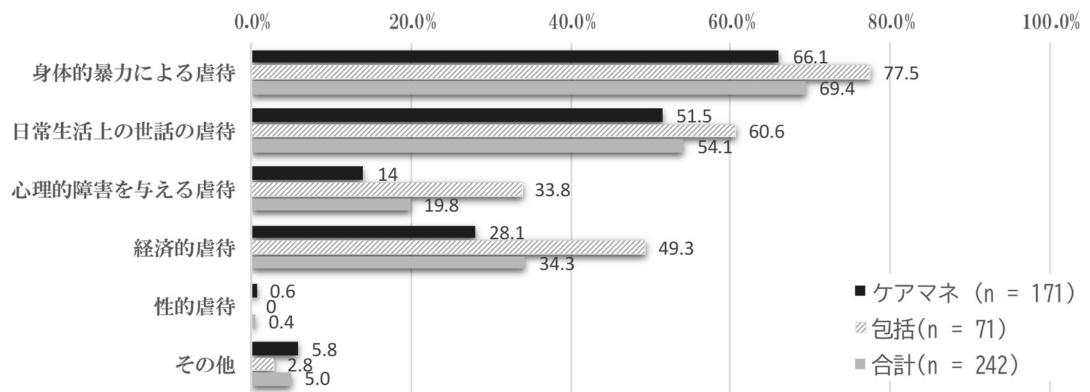
虐待の疑われるケースに関わったことがあるか(サービス計画作成者・過去の調査との比較)



虐待事例件数(サービス計画作成者・過去の調査との比較)



虐待の疑われるケースの分類別件数(サービス計画作成者・過去の調査との比較)



イ. 虐待事例への対処

虐待の疑われる事例への対処方法については、「他の施設・機関と連携して対処できた」が171件、「所属する施設・機関のサービスで対処できた」が99件、「他の施設・機関に対処してもらった」が20件であり、「対処できなかった」が15件となっています。

虐待の疑われる事例への対処方法(サービス計画作成者)

